

九州新幹線西九州ルートに関する「幅広い協議」（令和6年8月23日）

～終了後の北村幹線鉄道課長囲み取材～

○朝日新聞

今日の協議ですけれども、1年半ぶり、初めて非公開ということで実施されましたけれども、どういう内容を話し合っ、国交省さんのほうからどういうことを伝えられたかというのを御説明いただけますか。

○北村幹線鉄道課長

まず、今回初めて非公開で「幅広い協議」ということで、佐賀県さんから御提案をいただきました。非公開の「幅広い協議」ということで、自由闊達な議論ができるんじゃないかと。それによって、議論が進展するんじゃないかと。そういう観点から今回開催に至りました。

まず冒頭、私から皆さんにもお配りをしていると思いますけれども、先日の与党委員会でのヒアリングで、長崎県さんですとか、沿線の自治体等が説明された開業効果に関する資料なんですけれども、これを私から御紹介しつつ、新幹線の意義について御説明をさせていただきました。

やはり我々としては、新幹線が開業することで、もちろん人流が活発化するということもありますけれども、それ以外にも、企業立地が進むですとか、人口が増えるですとか、あと、先例があるように、まちづくりにも大きなプラスの影響があるというふうに考えておりますので、そういった説明があったということをお説明させていただきました。

また、佐賀県さんからの説明については、引馬部長からお聞きになられると思いますけれども、佐賀県さんからも資料に基づいて御説明をいただきました。その後、意見交換をしたということでございます。

○朝日新聞

これは佐賀県の資料を拝見すると、佐賀県のほうは従来から言っている地元での合意形成というのを説明されたのかなと思うんですけれども、そこら辺を国交省さんの開業効果というところと、結構ずれがあるような印象も受けるんですけれども、そこは何か議論の進展というか、あったんでしょうか。佐賀県のほうに理解は得られるようなことはあったんでしょうか。

○北村幹線鉄道課長

佐賀県さんも一般的な新幹線のそういうメリットというのは理解はされているということなんですけれども、そこは従来からおっしゃっているように、このルートについてはお考えがあると思

ますので、そこについて、引き続き議論をしていかなければいけないというのが私の印象です。

○朝日新聞

今回初めて非公開でやって、非公開でやったからこそその成果だったり、内容というのはあったというふうには感じられる部分はありましたでしょうか。

○北村幹線鉄道課長

我々としては、一般的に非公開のほうが自由闊達な議論ができるんじゃないかと思っていますけれども、今回そういうふうにやってみたことで、有意義だったと私は認識しています。

○西日本新聞

そもそものきっかけが、この「幅広い協議」の6月の佐賀県議会で自民党の議員さんが、公開の場ではカードが切れないと言っているというような発言がそもそものきっかけでした。今回、その表現では、今回カードというのはどういったことだったのでしょうか。

○北村幹線鉄道課長

特にカードを切ったということではないです。

○西日本新聞

ではないんですね。分かりました。

もう一点なんですけど、4月に課長は佐賀市のアバンセのほうに決起集会に来られて、私も取材をさせてもらったんですが、その点に関して、知事が南里副知事を通して、ゼロベースでまさに「幅広い協議」をしているのに、佐賀駅ルートが望ましいというような決起集会に行くのは、南里副知事として抗議をされたというふうな、その受け止めと、今日はその話はあったのでしょうか。

○北村幹線鉄道課長

まず、今日その話は特にはありませんでした。私どもとしては、新幹線の意義ですとか、そもそもの制度についてもですけれども、説明をしていただきたいという話がありましたので、そういう観点から行って、御説明をしたということでございます。

○日本経済新聞

今日はありがとうございます。

一応この「幅広い協議」という鉄道課長と地域交流部長とのレベルでの話は1年半ぶりということになりました。そこで、1年半ぶりに非公開でやられたことで、具体的に1年半前と比べて、どの辺りが進んだとか、さらにこの次につながるような次の会合はいつにしましょうとか、そう

いう話は出たんでしょうか。

○北村幹線鉄道課長

まず、次の会合がいつかという話は特にはしておりません。

佐賀県さんは佐賀県さんのお考えがあつて、我々も我々の思いがありまして、そこが一致していないといえますか、そこにまだ少し違う部分がありますので、やはり今回も含めてですけども、こうやって対話を重ねて、できる限り思いを共にしていくと言いますか、そういったことが大事かなと思つておりまして、そういう意味での意味はあつたと思います。

○日本経済新聞

じゃ、特に何か具体的な進展があつたとか、こちら側が勝手に期待していたかもしれませんが、何か新しい、非公開ならでの提案があつたということではないんですね。

○北村幹線鉄道課長

そうですね、はい。

○読売新聞

先ほど思いを共にするというワードがあつたんですけど、これまでも様々な形の会議体を重ねて協議されている中でも、どうしてもなかなか一致するという結果には結びついていないと思うんですけども、そもそもそういう状況を打破するためにも、どのような対話の重ね方といえますか、臨み方というのはどのようなふうにお考えでしょうか。

○北村幹線鉄道課長

対話は相手のある話ですので、そういうことも含めてしっかりと議論をしていきたいなというふうに思っています。

○読売新聞

中身とか、話の持ち出し方とか、そこを変えていくというのは。

○北村幹線鉄道課長

そこはやはり、佐賀県さんもよくおっしゃっていますけれども、大きな課題として、財政負担の問題と、在来線の利便性低下というのを、非常に懸念されていますので、そこを何とかしていくというのが重要だとは思つておりますけれども、そういったことも含めて、引き続きしっかりと議論をしていきたいなというふうに思っています。

○NHK

御説明ありがとうございました。

今関連して、財政負担についてなんですけれども、先月の与党検討委のほうで、森山委員長から記者からの質問に答える形で、以前、国のほうから示されていた建設費なんですけど、事業費なんですけれども、大分時間がたっていることから、再試算というような御発言とか言及される場面もあったんですけど、その辺りについては国のほうで、今後その予定というか、予算の引き直しというところは何か検討されていることはありますでしょうか。

○北村幹線鉄道課長

まず、事業費を出すにはルートが固まる必要があります。事業費を出すのもそんなに簡単な作業ではないですし、時間もコストもかかりますので、そういう意味ではルートが固まっていく中で出していければいいのかなと思っています。

また、前回、南里副知事も東京でおっしゃっていたと思いますけれども、まだそういう段階でもないというふうなこともおっしゃっていましたので、そういったことも踏まえて今後の進め方を相談していきたいなと思っています。

○NHK

なので、これまでに示されているルート案の中でも事業費の試算というところは、今後またさらにこのルート案が決まっていけない限りは、そういったフェーズではないという意味ですか。

○北村幹線鉄道課長

そうですね。今の段階で出すということは考えていません。

○NHK

ありがとうございます。

あと1点だけ。今後の協議の見通し、これまで打開策というところがなかなか進まない、新たな提案がない中で、どのように国としても協議を続けていくとか、その辺りの見通しはいかがでしょうか。

○北村幹線鉄道課長

まず、協議は相手のある話ですので、佐賀県さんと相談しながらどう進めていくかというのも決めていきたいと思っておりますけれども、我々としてはやはり新幹線が重要だと思っております、新鳥栖－武雄温泉間をフル規格でつなぎたいという思いがありますので、それについて佐賀県さんの御理解が得られるように、引き続きしっかりと議論を重ねていきたいということでございます。

ONHK

佐賀県のほうが地元の合意形成が図られることが重要だということで、これについては特に国のほうで尊重したいというか、どのようなお立場というか。

○北村幹線鉄道課長

まず、我々として、様々な課題がありますので、国も入って議論をしていくというのは重要だと思っております。そういうことを申し上げていますが、佐賀県さんからは地元の合意が大事なので、まずは3者で話をする。国とは「幅広い協議」を続けていきたいと、そういったことを言われている状況です。

ONHK

なので、あくまで3者協議、地元での協議、そしてこの「幅広い協議」と、2本軸というか、当然他の、その他事務方レベルの協議もあるかと思うんですけど、3者協議に国が入ってというところは今のところ考えていない？

○北村幹線鉄道課長

我々としては議論が前に進むのであれば、いかなることでもやっていきたいとは思っていますけれども、何せ自分だけで決められない、相手のある話ですので、そこは佐賀県さんと相談をしながら、協議というか、議論をどうやって進めていくのかというのも考えていきたいなと思っています。

○毎日新聞

今日は具体的にルートの話とか、従来から国交省としては佐賀駅ルートというお話をされていますけど、改めてそういう説明というか、そういう話はされたんでしょうか。

○北村幹線鉄道課長

ルートについては、従来から申し上げているように、佐賀駅を通るルートのほうが、佐賀駅は交通の結節点にもなっていますので、そういう意味で、新幹線はそういう交通結節点とつながるほうがいいという話と、あと、南側に行けば行くほど距離も延びますし、あと、地盤も軟弱ですので、工期も事業費もアップしますから、そういう点でも佐賀駅を通るルートがいいんじゃないかと。

他方で、我々、与党の委員会からも言われていますけれども、佐賀駅ルートが適切だとは思っていますけれども、佐賀駅ルート以外の案でも具体的な提案があれば検討するというところで与党の委員会でも決議はされていますので、そういうふうを考えているということはお伝えしました。

○毎日新聞

続いて、財政負担の話なんですけど、現在の整備新幹線法で距離に応じた負担が義務づけられている状況があるんですけども、そこら辺の法改正の可能性とか、そういうことについての説明とか、そういうものってあったりとかはしましたか。

○北村幹線鉄道課長

まず、法改正についての可能性は全然話をしていません。

あと、先日の委員会の後に森山先生も法改正について御発言されていますけれども、法律は国会でお決めになるものでもありますので、そういったことも踏まえて我々は考えていかなきゃいけないと思いますけれども、特に法改正についてどうこうという話はしていません。

○日本経済新聞

次もやはりこの「幅広い協議」でということなんでしょうか。それともちょっとステージを変えてという感じになりそうですか。

○北村幹線鉄道課長

まだ次を決めておりませんので、そこも佐賀県さんとの御相談だとは思いますが、我々としてはやはり佐賀県さんに御理解を得られるようにしっかりと議論していきたいと思っていますし、佐賀県さんがどういう形で受けていただけるか、応じていただけるかということかなと思います。

○日本経済新聞

じゃ、時期も何も具体的なことは今日はやらないで、本当にそれぞれの意見をおっしゃったということですか。

○北村幹線鉄道課長

そうですね。引き続き「幅広い協議」で議論していきましょうということは確認をしていますけれども、次どういう形で、いつという話まではしていません。

○日本経済新聞

その幅広いままで、あまり絞り込むこともしなかったということで。

○北村幹線鉄道課長

絞り込む？

○日本経済新聞

幅広くということで、例えば、具体的にここを今度少し具体化していきましょうとか、もっと

ここを具体的に……

○北村幹線鉄道課長

テーマということですか。

○日本経済新聞

テーマをですね。

○北村幹線鉄道課長

そういう意味では、先ほども申し上げましたように、佐賀県さんの懸念事項というのが、大きな懸念として財政負担と在来線の利便性低下だということで今日も改めて聞いておりますので、そこは重要な論点だなというふうには思いますけれども、ただ、「幅広い協議」の幅を狭めようという話は全然していません。

○ S T S

前回の与党検討委員会のヒアリングの後で、森山委員長が議論はのんびりしてられないというような御発言をされていたかと思うんですけども、その中で、今日の成果じゃないですけど、今日、話を終えた北村課長御自身のどこまでやったかというか、今日の結果に関して満足いく結果を得られたのか、もう少し踏み込んで話したかったのかという、そこの結果というか、どうだったんでしょうか。

○北村幹線鉄道課長

森山委員長がおっしゃっている時間がないという話は私も重く受け止めております。そういう意味でも佐賀県さんの理解を早く得ることが重要ななと思っております。そういう意味では議論を重ねていかなきゃいけないなということですけども、今日何か結論が出たかという、そこまでには至っていません。

他方で、初めて非公開で「幅広い協議」というのをさせていただきまして、忌憚なく自由闊達に意見交換ができたというのは、非常に有意義だったというふうに思っております。

○北村幹線鉄道課長

ありがとうございました。引き続きよろしく申し上げます。

以上